

寸言

兼松株式会社
車両・航空部門担当取締役
宮部 佳也



創業125周年を迎え、新たな航空宇宙事業への取り組み

兼松株式会社車両・航空部門担当取締役の宮部でございます。このたびは、伝統ある日本航空宇宙工業会会報「航空と宇宙」の『寸言』に寄稿する機会をいただき、御礼申し上げます。

当社は、日豪貿易の先駆けとして、明治22年（1889年）の創業以来、今年で125周年を迎えます。更なる飛躍を目指し、昨年には大幅な組織改編を行い、車両・航空部門が新設されました。当社の得意としている二輪・四輪車事業分野と航空宇宙分野との情報共有をはかり、シナジー効果による、業容の拡大を目指してまいります。

当社の航空宇宙事業は、本社航空宇宙部、国内グループ会社の新東亜交易株式会社航空・艦船部、兼松エアロスペース株式会社、海外グループ会社のKG Aircraft Rotables社の4社体制で取り組んでいます。主な取扱商品としては、防衛省殿向け米国Beechcraft社製救難捜索機、飛行点検機、基本操縦練習機、英国Rolls-Royce社・米国Honeywell社製航空・艦船エンジン、警察庁殿向け伊国AgustaWestland社製小型ヘリコプター、国土交通省殿向け米国Cessna社製飛行検査機、民間航空機用循環部品、米国Lockheed Martin社製放送衛星、英国Surrey Satellite Technology社製小型衛星等々、機体・衛星本体から各種機器、搭載品、部品に至るまで、多岐にわたっています。

また、最近の新たなビジネスとしては、加国Bombardier社製中型ジェット旅客機Cシリーズの販売事業を開始したことです。Cシリーズは、座席数110-160席、航続距離約5,500km、Pratt & Whitney社製新型ギアードターボファンエンジン（GTF）を搭載し、従来同型機に比べて燃費が約20%向上した他、大型機並みの機内環境を実現しており、これまでの“リージョナル機のボンバルディア”というイメージを一新する機体となっています。

長年培ってきたこれら海外メーカーの販売代理店というビジネスは引き続き維持拡大すべく努力してまいります。今後は販売だけではない自社の機能をもったビジネスを強化していきたいと考えております。特に注力すべきと考えているのは、現在欧州を中心として展開している民間航空機用循環部品事業です。LCCの参入もあり、世界的な旅客機の運用機数は益々拡大することが予測されている状況下、積極的な投融資を行い、欧州のみならず、米国、アジアの拠点も拡充し、民間航空機整備分野におけるOne Stop Serviceが可能な体制の構築を目指してまいります。

当社では創業125周年を迎え、このような新たな取り組みも含め、更なる航空宇宙事業の拡大・強化を目指して参りますので、日本航空宇宙工業会をはじめ、関係各位の皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。